

連載

介護・福祉現場のチカラを高める職場づくり



社会保険労務士
事務所テラス

倉 雅彦 所長
(ケアマネ)

§15 経営者としての人間力が大切! 「良い法人」となるために

法人を継続させることが地域社会への貢献

今回がラストのお話となりますので、経営者としての人間力や、「良い法人」になるための指針についてお話させていただきます。

優れた経営者にお会いすると、皆さん共通して魅力的なのですが、だからといって経営手腕が良いとは限りません。では、経営がうまくいっているから魅力的な人になったのでしょうか?

ある経営者は「はじめは自分の夢ばかり追っていて、人のことを考える余裕がなかったけれども、仕事が拡大していく中で人間関係の大変さや、人を雇用する難しさなどに直面し、自分だけいい思いをしようとしてもダメだと思った」と言っていました。環境が経営者を成長させていくと私は思っています。

「気づいたら、今のような性格になっていた」というのも、大切です。環境にもまれて、気付いて、行動して、自分自身を変えられた人であれば、経営もうまくいくのかもしれない。ただ、魅力的にならない経営者もあり、そういう人からは人心が離れていきますから、経営もうまくいかないでしょう。

重要なのは、どう自分を磨いて、何を感じるか。勉強していく中で道徳観・倫理観など「人間力」を成長させ、客観的に自分を見つめることで、器を大きくしないといけないのではないのでしょうか。

経営者としてどうしたら「良い法人」を育てられるのか? まず「良い法人」の定義について考えてみましょう。私見としては「職員との信頼関係を築きながら、人と社会を幸せにするブレない経営を実践し、いつまでも存在し続ける法人」ではないかと思っています。職員が、自分の家族や友人に向かって「うちの法人は良い法人だよ」と、自慢できるようであれば、素晴らしいのではないのでしょうか。また「経営が安定している」「利益を出している」のも「良い法人」の条件の一つとされていますが、それは地道に職場環境改善や人材育成に努力している結果として、利益がついてくるのだと思います。

法人をつくる真の目的は「継続できること」。法人は末永く継続することで、人と地域社会に

その価値を提供でき、職員とその家族、利用者とその家族をはじめ、地域社会を幸せにすることができます。

中小企業庁「中小企業白書2011」の調査によれば会社の生存率は10年後で約70%、20年後で約50%です。また、別の調査では、創業5年で残っている企業は15%、10年で10%、30年で2%、50年で0.7%、100年で0.3%というデータもあり、起業する大変さもありますが、法人として5年・10年先そして30年と継続していくことの厳しさを表しています。

「良い法人」の要素と次世代につなぐためのヒント

「良い法人」を目指すために、もう1つ大切なことがあります。それは経営者と職員、さらには職員同士も「認め合う」ことです。人生は有限です。人はより成長し、自分らしく生きて証として、他人や社会から認められることを強く望むと思います。法人をみんなで切磋琢磨してつくる過程においては、一人ひとりが認められ、また、認め合う場面をたくさんつくる必要があります。

「良い法人」の具体的な要素は、「いい会社カード・デライトコンサルティング社」によると7つあげられています。

- ①ブレない経営の軸
- ②独自の事業展開
- ③職員の成長重視
- ④当たり前のことを継続
- ⑤働きやすい職場環境の整備
- ⑥良い管理者
- ⑦顧客志向(利用者志向)

①については、よく「あの人の経営は信念に従っている」、「あの人には経営理念がある」という言い方をすることがあります。信念とは、「なぜ、福祉・介護事業を始めたのか」「地域に求められているものは何か」を踏まえて、法人としてどのような役割を果たしたら良いのかを明確に示すことです。また、「職員に対して理念を伝えているか」「理解されているか」。この部分は大切ですし、ブレてはいけません。

②は時代の変化に対応し、自分たちなら出来

るという自負が法人全体を活気づけます。③は職員がお互いの成長を認め合う風土づくりを法人が支援すること。④は仕事するうえでの気持ち良い挨拶など、だれでも出来ることを継続して行うことです。⑤は良い仕事をしてもらうためには環境整備が必要です。定期的な親睦会なども行うのも良いかと思います。⑥は傾聴・承認・対話をする環境づくりに注力しているかがポイントで、管理職の資質のレベルが法人の存亡を左右します。そして最後の⑦は、利用者さんをおもてなしする心、そして感謝する心が法人全体にあるのかどうか? 昨年流行語大賞にもなった「おもてなし」は良い事業所を運営する意味でも大切だと思います。

法人は社会情勢や環境、または社会保障制度等などの大きな変化によって、危機にさらされることがあります。あるいは大きな資本力によって市場を席卷され、その存在に脅かされることもあります。しかし、「良い法人」づくりによって育まれた経営者と職員、職員同士の信頼関係は、あらゆる危機を乗り越える力と環境適応力を与えて大きな底力となるでしょう。

経営者であれば「職員みんなのお陰で自分は幸せだった。次の世代へ法人を安心して引き継ぐことができた」。職員であれば、「うちの法人で自分らしく働けた。認めてもらった。家族を幸せにすることもできた」と、自信と誇りをもって語る事ができたならば、ある意味とても良い人生を送っていると言えるのではないのでしょうか。

そのような経営者と職員がいる法人は、「地域福祉の宝」として地域をはじめ利用者及びその家族に認められ、次の世代へと時代の変化に対応して末永く継続していくこと間違いなしです。

以上、連載15回を終了することとなりますが、多くの方にご支援・ご協力いただきありがとうございました。このような機会に恵まれたことを幸せに思います。職場のルール作成・見直し、職場の風土・評価制度などの改善などがありましたら気軽にお問い合わせください。

(おわり)

■社会保険労務士事務所テラス <http://www.sr-terrace.com/>
※「いい会社カード」(デライトコンサルティング社製)価格3500円(税別)は弊社事務所ホームページからでも購入できます。